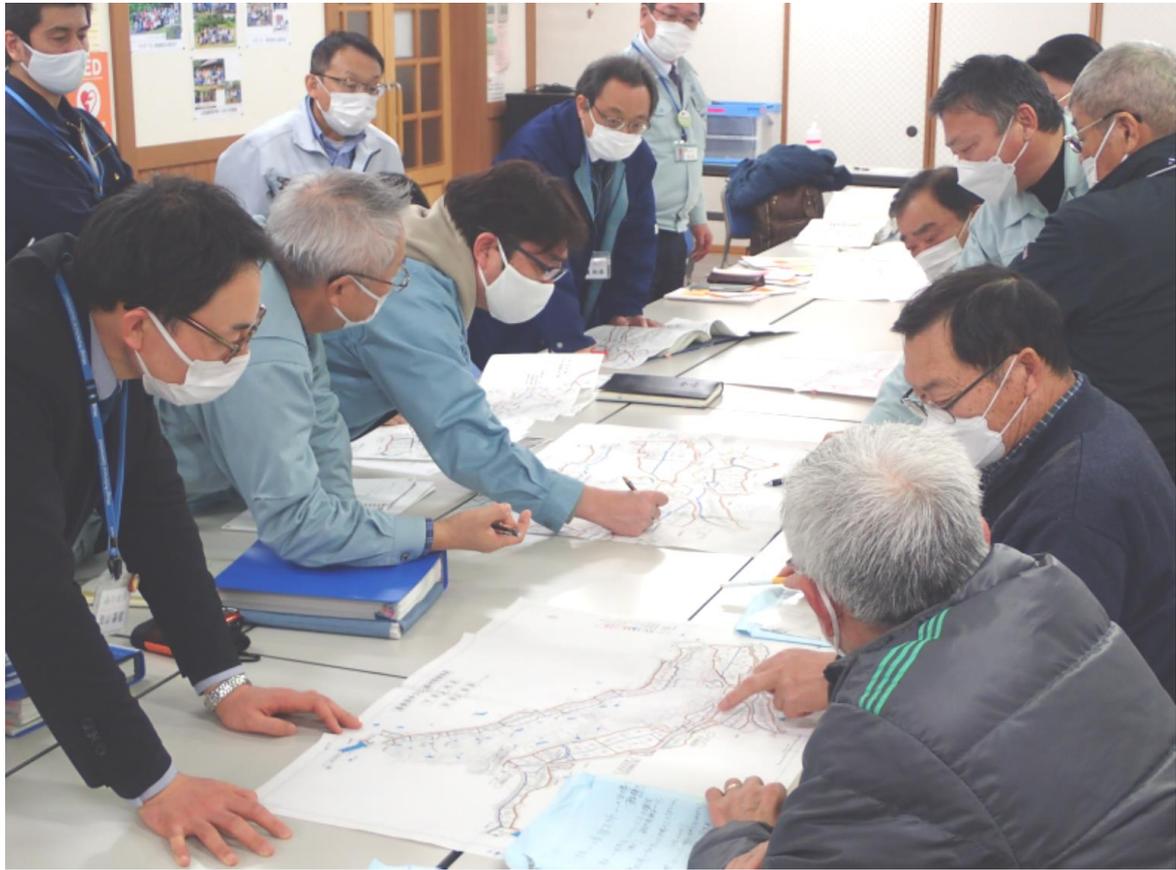


# プロジェクト課題No.4 「下真山地区における農地整備事業を 契機とした地域農業の発展」



大崎農業改良普及センター

©泉澤弘子 櫻田英子 漆山喜信 門脇正好 阿部玲佳

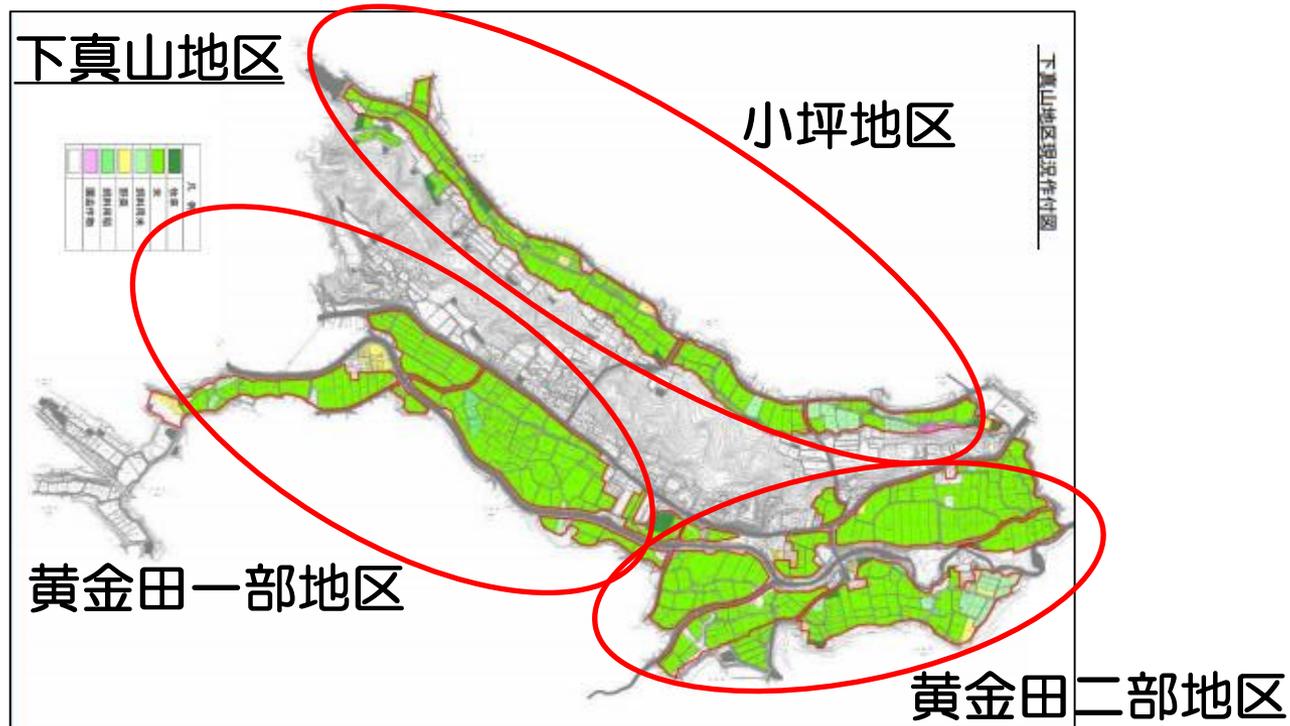
# 1. 課題の計画について

## ○計画期間

令和3年度～令和4年度

## ○対象者

大崎市岩出山下真山地区担い手候補者13経営体  
(法人経営体1法人，個別経営体12人)



## 2. 課題の背景①

- 下真山地区の水田は不整形で未整備
- 高収益園芸品目が確定していない
- 若手担い手が明確化していない



- 農地整備事業を活用した効率的な営農の推進
- 園芸振興による収益性の確保
- 若手担い手を中心とした経営体づくり



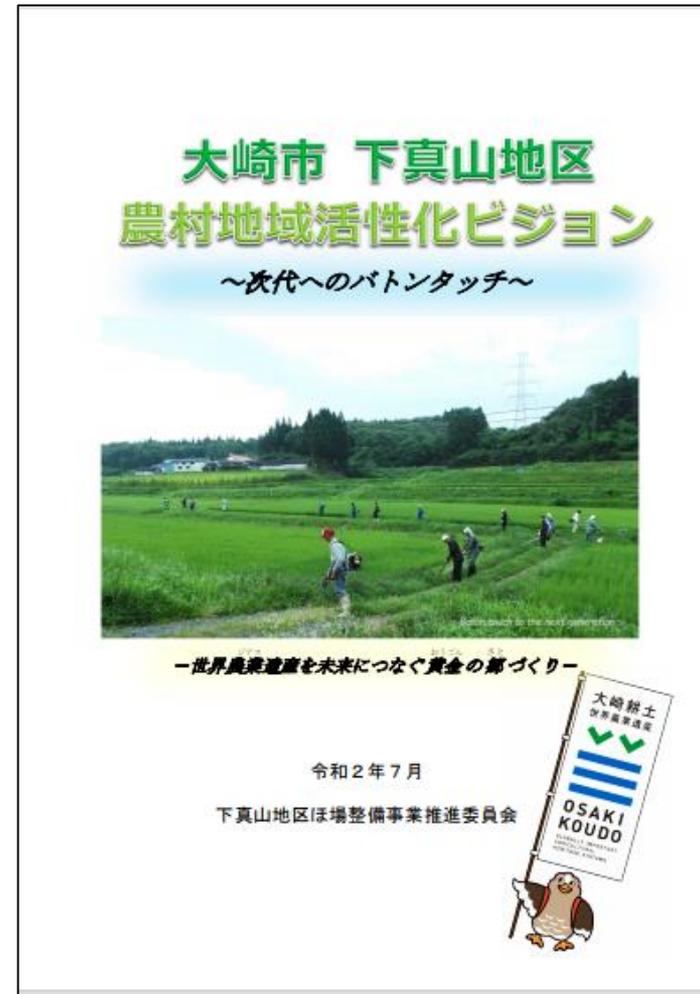
- モデル事例として中山間地域をはじめ,他地域でも波及が見込める!



## 2. 課題の背景② 農地整備事業

### ・導入予定事業は農業競争力強化農地整備事業

- ・農地85%を担い手に集積（集約）
- ・3経営体程度の担い手（担い手）の絞り込み
- ・高収益作物の導入



### 3. 課題の目標

#### ○定性的目標

- 担い手への集積と集約化へ集落の話し合いが進み、営農ビジョン実現の見通しが立つ
- 高収益作物が選定され栽培技術習得が図られる

#### ○定量的目標

法人設立数

令和2年度  
1法人



令和3年度  
2法人



令和4年度  
3法人



# 4. 活動内容 (地域の合意形成)



4月推進委員役員会



令和4年11月8日(水)に、第21回推進委員役員会を開催しました。農地転用事業の計画の最終確認や、高収益作物への取り組みについて話し合いました。

\*\*\*\*\*

### 推進委員役員より

11月8日におこなった第21回の役員会において、下真山地区農地整備事業の基本計画の最終確認や、今後担い手が実施していく高収益作物についての議題が盛り、とても有意義な話し合いができました。  
皆様には、改めてスケジュールを確認していただき、当初の計画通り、令和6年度の事業採択に向けて引き続きご協力をお願いいたします。

しもまやま通信発行

- 関係機関と連携しながら推進会議に参加し、情報交換を行った。
- 地域内での情報共有を図るため「しもまやま通信」発行を提案した。これまでに3回発行し、現在4回発行の予定である。

## 4. 活動内容（法人化支援）



8月（全体勉強会）  
担い手対象の法人化研修

1月（地域ごと）法人化研修

- ・ 担い手候補者に聞き取りを実施し、法人化の時期や法人形態について把握した。
- ・ 8月に全体研修会を開催し、その後令和5年度内に法人化を目指す担い手を対象に勉強会を開始した。

## 4. 活動内容（高収益作物の栽培支援）



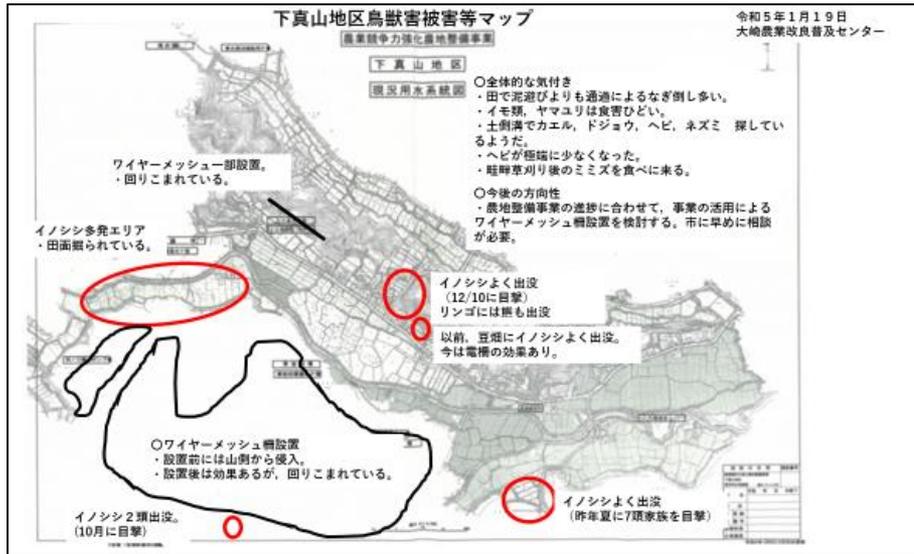
地区	品目	面積
A地区	加工用トマト・とうもろこし ・さつまいも・落花生等	190a
B地区	菊・とうもろこし・なす・ じゃがいも等	90a
C地区	かぼちゃ・はくさい そらまめ・キャベツ等	160a

6月 担い手から聞き取り状況

地区ごとの高収益作物品目

- 複数回にわたり担い手候補者と高収益作物について話し合いを実施した。
- カボチャを藤崎百貨店に出荷継続。
- 保管したカボチャの食味試験を実施。
- 5haの園芸団地の作付け計画について地域内で合意。

# 4. 活動内容（地域ぐるみの野生鳥獣対策）



鳥獣害被害マップ



- ・地域の野生鳥獣対策に詳しい推進委員から、防護柵の設置位置やイノシシの被害状況等を聞き取り、鳥獣害被害マップを作成した。
- ・マップを基に、担い手部会で今後の高収益作物エリアの野生鳥獣害対策について話し合い、ワイヤーメッシュ柵を設置して被害防除をしていくこととなった。

## ●定性的目標

- 担い手への集積と集約化へ集落の話し合いが進み、営農ビジョン実現の見通しが立つ
- 高収益作物が選定され栽培技術習得が図られる

## ○営農ビジョン

⇒農地整備事業や担い手部会の活動内容を「しもまやま通信」等で、情報発信することで、地域内活動が「見える化」され合意形成のツールとして活用された。また担い手部会が設立されたことにより、地域内で担い手農家が明確化された。担い手農家の農地整備事業に対する意欲が向上した。

## ○法人化支援

⇒各担い手から法人化への課題や疑問を聞き取りを行い、全体勉強会に参加したことで、農業者の理解が深まった。加えて地域ごとに法人化の時期が明確になった。

## ○高収益作物への取組

⇒担い手部会で5haの園芸団地での作付け品目が決定し、地域内で合意が得られた。



## 成果②

- 定量的目標

- 法人設立数

令和2年度

1 法人

⇒ 令和3年度

2 法人

⇒ 令和4年度

2 法人

- 令和5年度

3 法人に



## 6. 意見及び評価

### ○対象者

令和5年度に法人化を考えており、普及センターに相談を行ってきている。地域の様々な疑問に対し聞き取りを行い、問題解決に向けて専門家を派遣していただき勉強会を複数回開催してもらった。今後も継続的に支援をしていただきたい（事務局長）

### ○関係機関

担い手部会への情報提供や各種座談会の開催の提案、経営相談所と連携した研修会の開催等スピード感を持ちつつ適時適確に地域をけん引頂き大変感謝している。法人化も具体化しており今後も引き続き担い手育成に対する支援をお願いしたい。（大崎市役所）

## 7. 来年度の活動計画について

- 「しもまやま通信」発行を継続し，地域の合意形成を支援する。
- 経営支援センターと連携して専門家派遣等を行い，担い手の法人化に向けて支援を継続する  
⇒重点課題と位置づけ活動する

⇒農地整備事業を契機として下真山地区の新しい営農体系を作っていくもの。将来に渡って地域の農地を守りながら，継続的に収益性を確保する経営体を育成するため地域の方々と手を携え，関係機関と連携しながら支援を継続していきます！